

代表理事就任のご挨拶



代表理事組合長

岩竹 重城
いわたけ しげき

組合員の収入アップと広酪の体力回復に努める

このたび六月二十六日の第十九回通常総会終了後の理事会において、山本武代表理事組合長が退任された後を引き受けることになりました。岩竹重城でございます。先輩役員の方々の、これまでのご尽力に敬意を表します。今後とも宜しくお願い申し上げます。

また、今年の役員改選で新たに女性理事が誕生し、女性の立場から広酪にモノ申して頂くことを期待しております。

今年度の総会の背景にあります、米国の干ばつ被害や円安等を受けて、飼料価格の高騰が酪農経営を圧迫し、コスト上昇の他、乳牛頭数の減少、T P P参加への不安が増産意欲をそぐ状況にあります。そうした中で中国生乳販連では生乳1kg当たり七円以上をもって乳価交渉を進める考えにあって、広酪では独自に試算した購入飼料依存型経営の数値をもって、生乳1kg当たり十五円以上の乳価引き上げが必要と示し、七円では無くむしろ三十数年前(昭和五十七年七月時点)の飲用乳価百十八・二一六円の復元

に向かうよう積極的に意見発信すると共に、広島酪農政治連盟、日本酪農政治連盟を通じて国の所得補償政策が得られるよう提案かつ進言しておりましたが、一部大手乳業者から、平成二十五年度飲用乳価(生乳1kg当たり五円)の引き上げが公表されました(平成二十四年度の生乳用途別取引実績をもってのプール乳価換算では条件を良い方向で見ても、単純に約三・三円のアツプと想定されます)。

乳価は酪農家にとって「給料」であり手取り収入であります。平成二十五年度生乳受託販売数量は組合員からの自主申告数量から五万五千八百八十二・六トンとし、その達成に向けての指導支援をすることはもちろんの事、組合員の収入アップと広酪の体力回復に努めて参りたいと思っております。

広酪では、今年度十月から十二月を目標に、みわ・庄原の両TMRセンターをみわTMRセンターに統合し、低価格で良品質な飼料供給体制の確立を目指します。そのためには広島県に

二百二十七の集落法人があります。落法人の連携による飼料イネ(たちすずか)の確保に向けた取り組みが重要になってきます。また、組合員が生産されている自給粗飼料の確保をどのようにするかということも、広酪にとってTMRセンターの運営が重要になってくると思っております。

そして、足腰の強い酪農を目指した、育成牛の確保に向けた安価なTMRの利用を実現しなくてはいけないと思っております。

「組合のトップが変わる」ということは「組合も変わる」ということでありますが、「組合長は職員的生活を守る」という重大な使命がありますし、「組合員の生活を守るのには組合」であり、職員の方々の皆さんの日頃の取り組みであります。職員の業務内容は同じではありませんが、組合員に生乳を搾って貰う仕事をしているという認識のもとに平成二十五年度の生乳受託販売数量五万五千八百八十二・六トンの達成に向けて、役員が一体となった取り組みをお願いします。



代表理事専務

鈴木 すずき

道弘 みちひろ

恒産無き者は恒心無し

このたびの役員改選に伴い、代表理事専務の要職を拝命し、改めてその重責を痛感しております。酪農を取り巻く環境は、今までに経験したことのない苦境を予感させる状況です。様々な経済的仕打ちに翻弄され、正当な評価がなされない生乳に愛牛ともども悲哀を感じています。

今まで諸先輩方が築いてこられた素晴らしい広酪の組織を最大限に活用し、組合員のご意見を尊重し、組合員の手取乳代を如何に増やすかが最大の役目と考えています。

「恒産無き者は恒心無し」という孟子の言葉があります。この言葉の意味は、「生活が安定していないと精神も安定しない」ということです。酪農という生業に関わる皆様が早く安定した生活が出来ますよう努力致します。

先見性、決断力、スピード感をもって、組合運営に携わる決意です。どうぞ叱咤激励を宜しくお願いします。